

4 令和6年度 川北町立川北小学校 学校評価計画

	評価項目(◎重点)	具体的取り組み	評価指標	達成度判断基準	備考
1	①組織的な学校運営(組織的実践) <学力向上ロードマップに基づく組織的実践と学校評価を生かした体制の充実> ・主任を中心とした各組織がPDCAサイクルを機能させ、連携し取り組める組織の構築 ・目標達成に向けた教育活動 ◎定期的な検証、改善の確実な実施(PDCA)、	四部会と運営会議と職員会議を密接に連携させた、組織的・主体的な取組と学校評価を生かした体制づくりを行う。定期的な検証・改善を行うために、運営会議等で学力向上ロードマップや学校評価の結果をもとに改善策を共有するとともに、実施後のアンケート等でさらなる検証・改善を行う。	【努力指標】 学力向上ロードマップや学校評価に基づき、全職員が学校経営方針の具現化に向け、組織的・主体的に学校運営に携わって取組の検証・改善を進めている。	学力向上ロードマップや学校評価に基づいて組織的・主体的に改善業務に取り組む、アンケート等で検証し、具体的な改善を進めている教師の割合が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	主担当:教頭 評価方法:教職員アンケート 実施時期:7月、12月
2	②確かな学力の育成(チーム学校川北) <「チーム学校川北」を実現する学校風土の形成と人材育成> ・協働して学び続ける職員集団。 ◎人材育成による業務改善の推進。 ・高い危機管理意識による安全安心な学校づくり。	月一回のOJTの活用及び運営会議の学校改善の話し合いの中で若手や主任の人材育成を行う。また、業務内容を見える化し、見通しをもって、各部会が連携しながら業務を進めることで、効率化を図る。	【満足度指標】 OJTや運営会議を計画的に進め、業務内容を見える化し、若手・主任の人材育成と部会との連携を進め、教師力を向上させることで業務改善に繋がっている。	自分の目標とする教師像に近づいたため教師力を向上させ、業務改善に繋がったと感じている教師の割合が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	主担当:教頭 評価方法:教職員アンケート 実施時期:7月、12月
3	③豊かな心の育成(進んで学ぶ児童の育成) <進んで学ぶ児童の育成> ・子どもが目標達成する授業。 ・子どもが主役の授業。 ◎主体的・対話的で深い学びを通じた目標達成につながる授業改善の推進。 ・組織的なGIGAスクール構想の推進	児童が主体的に学びに向かい、考えを深め合い、学ぶ楽しさを実感することのできる授業改善のため、校内研修や研究授業等で共通理解や共通実践を積み重ねる。	【努力指標】 教師は「つけたい力を明確にした単元構想」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の自覚化の充実」を柱に、授業設計の工夫をしている。	つけたい力を明確にした単元を構想し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業づくりに取り組んでいる教師の割合 A:85%以上 B:80%以上 C:75%以上 D:75%未満 ※児童アンケートで「自分で学び方を選択・判断し、自分の考えをよりよくよとした」と答えている児童の割合	主担当:研究主任 評価方法:教職員アンケート 児童アンケート 実施時期:7月、12月
4	④健やかな体の育成(基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得) <基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得> ◎つけたい力を明確にした授業実践と本時の目標で貫かれた授業実践。 ・パワーアップタイムの有効活用。 ・家庭と連携した学習習慣の確立と質と量の充実。	各単元の学習内容を確実に身につけさせるために、本時の目標で貫かれた授業を実践する。	【成果指標】 児童は各単元の学習内容が定着している。	算数の単元末テストが80点以上の児童の割合が、クラスの80%を超えるクラスの割合(全8クラス) A:6クラス B:5クラス C:4クラス D:4クラス未満	主担当:教務主任・学力担当 評価方法:得点集計 実施時期:7月、12月
5	⑤家庭・地域との連携(自己有用感の高揚と居心地の良い学級づくり) ◎生徒指導の4つの視点を生かした積極的な生徒指導。 ・児童会活動や縦割り活動による主体性・協働性の育成と温かな人間関係の構築 ・明るいあいさつや思いやりのある言葉遣い。	改訂された生徒指導提要のポイントを示し、共通理解を図る。授業や生活指導に活かし、自己有用感を高め、居心地の良い学級づくりを進める。	【満足度指標】 安心・安全な学校生活を送り、学校生活が楽しく感じている。学級に児童の居場所があり、一人一人が学校生活に満足している。	児童アンケートの「学校は楽しい」「先生はできるようになったことやがんばったことを認めてくれる」児童の割合 A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	主担当:生徒指導主事 評価方法:児童アンケート 実施時期:7月、12月
6	⑥健康教育の充実(道徳授業を中心に教育活動全般を通して道徳性を育成) ◎教育活動全般にわたっての重点目標(2つの心)の意識化。 ・読書活動の推進(習慣・質と量の向上)	児童の道徳的心情(特に重点項目において)を養うために、道徳の授業と学校行事を関連づけて指導する。	【成果指標】 児童は授業や学校生活の中で重点項目について、道徳的心情を伸ばそうとしている。	児童アンケートの「自分には、よいところがあると思う」「たてわり活動や行事では、グループの人と協力して取り組んでいる」と回答した児童の割合 A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	主担当:道徳教育推進教師 評価方法:児童アンケート 実施時期:7月、12月
7	⑦健康教育の充実(体力・運動能力の向上) ◎スポーツテストによる課題の克服を通して健やかな体の育成。 ・目標に向かって、主体的に体力づくりに励む児童の育成	スポーツテストの結果から、反復横跳びに着目し、体力づくり1校1プランの取組を通して、体力の向上を図る。	【成果指標】 反復横跳びの記録を伸ばすため1校1プランの取組の内容を進んで取り組もうとしている。	「体力づくりの旬間では、目標に向かって進んで取り組んでいる」と回答した児童の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満 ※体力テストで測定した「反復横跳び」の結果より、12月に測定した結果が3回以上記録がのびた児童(4~6年生)の割合	主担当:保健主事・体育担当 評価方法:児童アンケート 測定結果 12月 実施時期:7月、12月
8	⑧健康教育の充実(健康教育の充実)~望ましい生活習慣の確立~ ・心身の健康を重点とした保健指導の推進。 ◎家庭と連携した早寝、早起き、メディアの時間の取組。	生活を見直したり、メディアを使う時間をうまくコントロールしたりする力を養うために、アウトメディアの取組で、自分の決めた目標の達成をめざした取り組みを行う。	【成果指標】 各取り組み期間で自分の決めたアウトメディアの目標を達成できている。	「メディア使用を1日1時間以内」を基本に、各家庭ルールを作成し、かつ守ることができている割合 A:80%以上 B:70% C:60% D:60%未満 ※各取組期間に目標を達成した児童の割合	主担当:保健主事・養護教諭 評価方法:アウトメディアの取組用紙 実施時期:5. 7. 12月
9	⑨家庭・地域との連携(地域人材の活用によるキャリア教育の充実) ◎各教科、総合的な学習の時間等による積極的なゲストティーチャーの招聘。 ・地域人材を生かしたふるさと教育の推進。 ・家庭・地域との連携の推進(学校運営協議会:コミュニティスクール)	地域のよさを知り、児童が夢や目標をもつキャリア教育を充実させるために、各教科(道徳を含む)、総合的な学習の時間や特別活動で年間2回以上ゲストティーチャーを活用した授業を行う。	【満足度指標】 ゲストティーチャーを活用した授業を通して、児童が学びを深め夢や目標をもっている。	年間2回以上ゲストティーチャーを活用した際に、「ゲストティーチャーとの学習や活動は地域のよさを知ることや将来の夢や目標をもつために役に立つ」と回答した児童の割合 A:80%以上 B:70% C:60% D:60%未満	主担当:キャリア教育担当 評価方法:児童アンケート 実施時期:ゲストティーチャー活用後(年2回)
10	⑩家庭・地域との連携(情報の収集と発信の充実) <情報の収集と発信の充実> ・学校評価委員会等のご意見による学校改善の推進。 ◎積極的な情報の発信・公開(学校HP、各種たより、学校メール、クラスルーム)。	学校運営協議会や学校関係者評価委員の意見を取り入れた改善を積極的に進めるとともに、各種たよりや学校ホームページ等による教育活動の発信を充実させる。	【成果指標】 学校運営協議会や関係者評価委員会での学校の様子や学校運営について説明したり、担任や担当が各種たよりや学校ホームページで積極的に発信し、家庭への情報の提供が積極的に行われている。	ホームページを毎日更新したり、各種たよりを出したり、クラスルームでクラスの様子を伝えたりすることで、「家庭への情報の提供が積極的に行われている」と回答した保護者の割合が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	主担当:教頭 評価方法:保護者アンケート 教職員アンケート 実施時期:7月、12月